

御礼 支援下さった皆様、そして心配して下さった皆様へ

実に様々な人たちから様々な支援を戴き、慰問激励を私たちは受けました。皆様本当にありがとうございます。

活きた火山の下に住み暮らす私たちは、いつか遭遇するであろうこの災害を目の当たりにして、多くのことを学びました。まず感謝しなければならぬことは、火傷を負った島民が一人居ましたが、皆無事避難出来たことです。そして夜中でないこと風雨を伴わなかった事も幸いでした。本村地区の住民はいざという時、番屋ヶ峰に集結する習慣が付いており、現在避難所としては未完成ですが整備は進行しています。水や非常食等は備えてあって、島の消防団員の訓練も行き届いており、学校の対処も素早くなされました。湯向地区は幸いこの噴火では大事に至りませんでした。そして屋久島町の迅速な対応で私たち全島民はフェリー太陽に乗り、宮之浦で三ヶ所の避難所に別れ避難しました。

帰島までの7ヶ月、私たちは屋久島で手厚く遇され、何不足することなく暮らすことが出来ました。本当にありがとうございます。避難生活を送る中、日本の世界のあちこちで困難に遭遇する人たちを知りました。私たちが如何に恵まれた被災者であるか、よく分かりました。また島は決して無人化してはならないと思いました。そして何と多くの方々から支援激励を受けたことか、これに忘えるためにはどうすればよいか、私たちはこう考え思い至りました。まず私たちが火山や海と共に朗らかに優しく、しっかりとこの島で生きてゆくことです。良い子をたくさん産み育ててゆくことです。そして私たちが支援出来る側に立った時、惜しみなく支援したいと思えます。

私たちの復興はまだ途中です。この災害をバネに新しい口永良部島を模索いたします。どうぞ永い眼でお見守り下さい。

本当にありがとうございます。

平成二十八年 春

口永良部島 島民一同